通って・泊まって・訪問して
多機能ホームまどか
（小規模多機能型ホーム）

「やっぱり家がいいよ」に応えたい

妻を早くに亡くされた黒田さんは、働き盛りの息子さん 2 人と生活しています。外出は自転車に乗って、買い物して料理を楽しみ、町内会主催の麻雀の集いや近くの川で釣りをしたりと、気ままに生活を楽しんでいました。3 年前に外出先から自宅に戻れず、日中ひとりになることに不安を感じた息子さんが高齢者相談センターを訪ねたのがきっかけで、まどかに相談がありました。ご本人に多機能ホームまどかの説明をすると「うん、いいよ」と笑顔で答えられ、訪問と通いサービスが開始されました。

右耳が聞こえないので他の利用者との関わり方を心配しましたが、おおらかな方で、皆の話を黙って聞きながらふと冗談を言ったり、歌の由来を皆に教えたり、得意な麻雀に参加するなど、上手に馴染んでいました。そして「包丁研ぎしてやるよ」と自宅から砥石を持参して、まどかの包丁を研いでくださいました。送迎や訪問時の駐車場所は前の家の方が「空いていたら停めていいわよ」と声をかけてくださり、ご近所との良好な関係も想像できました。

しかし軽い脳梗塞を発症し左腕の動きと歩行が思うようにできなくなり、さらに重篤な病気が見つかり、時々入院して治療をする生活になりました。病気を告知されたとき、「そうか、もうここまで生きたんだからいいよ」と積極的な治療はしないと意思表示したときの穏やかな表情に、その席にいた者たちはみんな『最期まで黒田さんの意思に添って…』と思ったのではないでしょうか。

「病院は嫌だな。やっぱり家がいいよ」という黒田さんの言葉に、介護保険の住宅改修で手すり設置とドアを取替え、介護用ベッドをレンタルして自宅環境を整えました。

利用開始当初は要介護1だった黒田さん、現在は病気で体力も落ちて要介護4になりました。訪問診療と訪問看護で急な体調の変化にも対応できる体制と、まどかでも緊急時の心積もりをしつつ、訪問や通いの内容の見直し、家族の休息のために宿泊を追加しました。その他、訪問リハビリや配食サービスとも連携しながら、黒田さんの在宅生活を支えています。

入院中は食欲が落ちていても、自宅に戻ると食事も摂れて体重が増します。「不思議です。病気より免疫力の方が勝っているようです」と医師に言われ、黒田さんの“生きる力”を感じています。「病は気から」と言いますが、本当にそうですね。精一杯生きる姿はステキです。これからも、“できるだけ自宅での生活を続けたい、続けさせてあげたい”という、黒田さんや息子さんの希望をかなえられるよう支援していきたいと思っています。

（多機能ホームまどか／滝本　陽子・中本嘉子）